

(3) 各機関からの情報提供(取り組み紹介等)

令和3年3月15日

市町村における取り組み資料

流域内の主な取り組み

◆氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

・河川整備

流下能力が不足している河道に対し、
 流下断面を確保するための河道掘削等
 を実施している。(総合流域防災事業)

【一級河川】

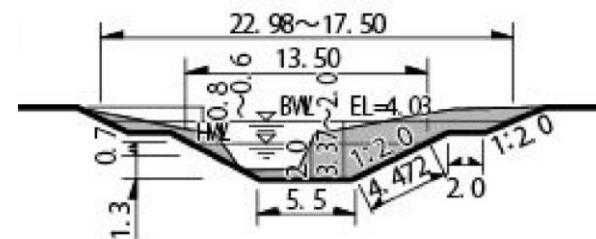
河川名	事業年度	備 考
雁来川	H3～	河道掘削等 計画延長 L=3.1km
モエレ中野川	H12～	河道掘削等 計画延長 L=1.5km

【準用河川】

河川名	事業年度	備 考
厚別西川	H31(R1)～	河道掘削等 計画延長 L=1.3km
北郷川	H31(R1)～	河道掘削等 計画延長 L=1.5km
新川西川	R2～	河道掘削等 計画延長 L=1.4km

雁来川

施工済み区間



河道断面

流域内の主な取り組み

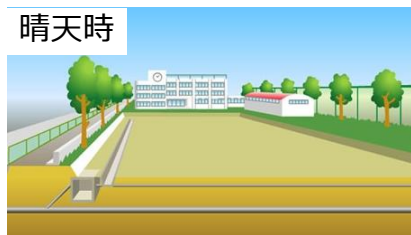
◆ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

・ 流域貯留施設の整備

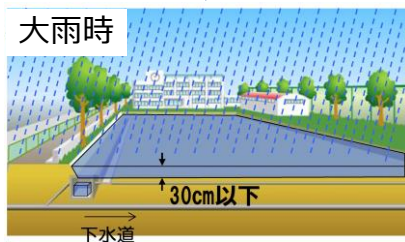
洪水を防ぐため、雨水が一度に川へ流れ込まないように、公園や学校のグラウンド等に、敷地内に降った雨水を一時的に貯留する施設の整備を行っている。

(流域貯留浸透事業)

晴天時



大雨時



施工済み箇所



白生公園（白石区）

平成26年9月11日大雨時の貯留状況



河川名	事業年度	備考
伏籠川流域(総合治水)	H5～	計画箇所数 115箇所
望月寒川流域	H13～	計画箇所数 36箇所

・ 開発事業に伴う流出抑制施設の設置

一定規模の宅地造成等の開発を行う場合は、札幌市宅地開発要綱」に基づき、事業者が雨水貯留池等の流出抑制施設を設置している。



北区東茨戸(雨水貯留池)

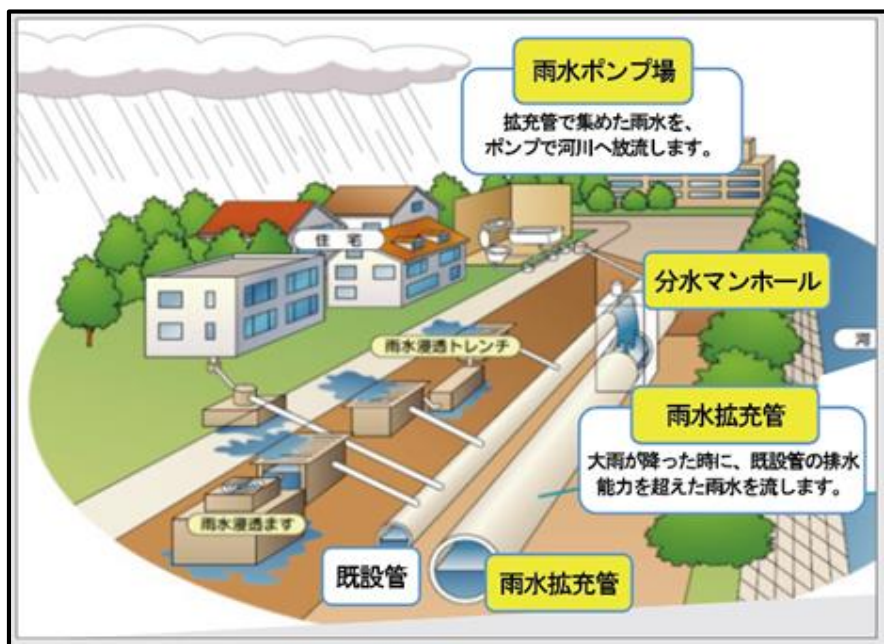
流域内の主な取り組み

◆氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

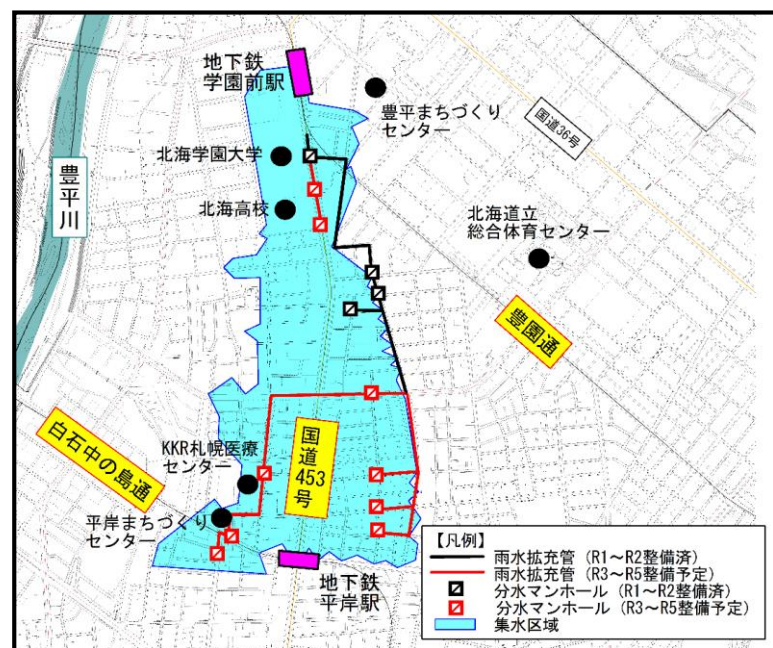
・雨水拡充管の整備（内水氾濫対策）

札幌市では、10年確率降雨35mm/hへの対応を目標として、雨水ポンプ場や雨水拡充管の整備を進めており、整備完了の面積割合は約9割に達している。

現在、過去に浸水被害が発生している地下鉄平岸駅周辺において、国の交付金事業である「下水道浸水被害軽減総合事業」を活用し、令和元年度から5年度までの事業期間で、総延長3.2kmの雨水拡充管整備を進めている。



雨水拡充管、雨水ポンプ場のイメージ図



平岸地区整備概要図

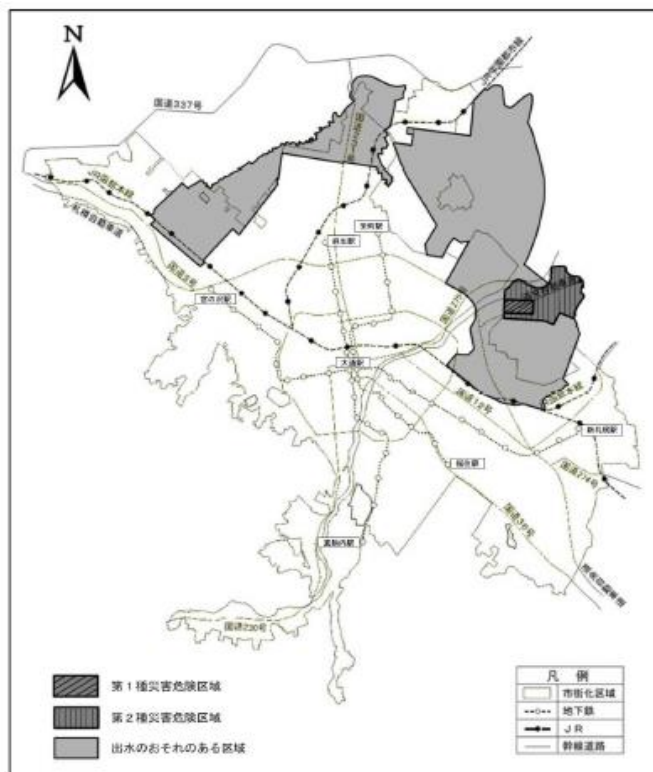
流域内の主な取り組み

◆被害対象を減少させるための対策

- ・土地利用・住まい方の工夫

災害危険区域と出水のおそれのある区域の指定

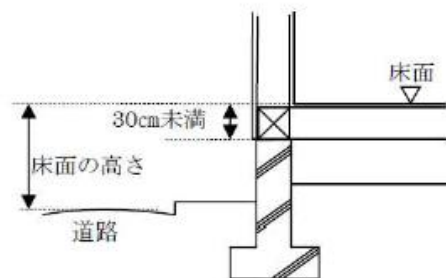
札幌市では建築基準法第39条(災害危険区域)と同法第40条(地方公共団体の条例による制限の附加)を組み合わせ、札幌市建築基準法施行条例において、リスクに応じて災害危険区域と出水のおそれのある区域を指定している。



災害危険区域・出水のおそれのある区域

札幌市建築基準法施行条例に基づき、災害危険区域では床面の高さは以下に掲げる数値以上とし、基礎の高さ及び構造並びに便槽の高さは、以下に掲げるとおりとしなければならない。
なお、出水のおそれのある区域内では、以下の基準を満たすよう努めなければならない。

区域		床の高さ	基礎の構造	便槽の高さ
災害危険区域	第1種区域	道路面より1.5m以上	鉄筋コンクリート造 (基礎の上端は床面まで30cm未満)	くみ取り便所は便槽の上端を基礎の上端以上とする。
	第2種区域	道路面より1.0m以上		
出水のおそれのある区域		道路面より0.6m以上		



◆被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・減災・防災対策について

防 災 教 育

- ・防災教育用教材の配布
 - ・小中学校での防災授業実施
- ※H30(9回)
R1 (8回)
R2 (2回)



小学4年生用
社会科副読本

防災教育用教材（児童用）

市役所庁舎、災害拠点病院の非常用発電

- ・市役所本庁舎に非常用発電機設置済（72時間稼働）
- ・札幌市災害基幹病院（16施設）、全て非常用発電設備設置済（概ね3日程度の燃料確保）

要配慮者利用施設の避難確保計画作成

- ・要配慮者利用施設に対する避難確保計画作成促進（R2年度末までに作成予定）

洪水災害：対象2,263施設（作成済166施設）
土砂災害：対象 186施設（作成済16施設）

※R2.12月時点

避難行動の理解促進

- ・洪水ハザードマップに避難行動フローチャート掲載（R元年度に全戸配布）
- ・札幌市広報誌やコミュニティFMラジオ、防災イベント、出前講座等で理解促進に努めている。



広報さっぽろ
9月号



※「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく石狩川下流域外河川の減災に係る取組方針（石狩川下流域外減災対策協議会）
におけるソフト対策の取り組みを抜粋



石狩市の流域治水の取組み

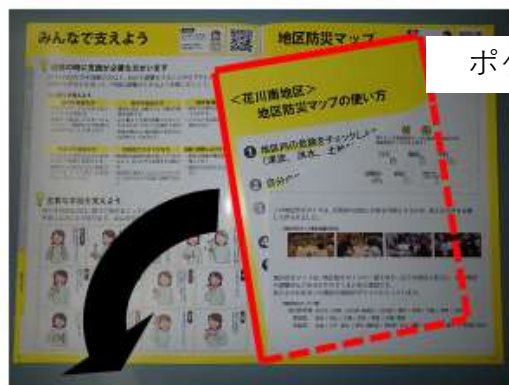
被害の軽減に向けた取組み（避難体制の強化）

①石狩市地区防災ガイド

- 情報アクセシビリティに配慮
- 最新の情報を提供できるように防災マップを別冊化
- 配布して終わりではなく活用促進



表紙



ポケット



- ① 地区内の危険をチェックしよう。
(津波、洪水、土砂災害など)
- ② 自分の家をチェックしよう。
- ③ いつも通っている場所をチェックしよう。
(学校・職場・病院など)
- ④ 近くの避難所をチェックしよう。
- ⑤ 家やいつも通っている場所からの避難ルートを書いてみよう。

※付録の材料を使って家族でマップを完成させよう！
※地区防災ガイドを詳しく見てみよう！

石狩市の流域治水の取組み



石狩市

被害の軽減に向けた取組み（避難体制の強化）

②石狩市防災ポータルサイト

- 令和6年度から本格運用開始予定
- GPS機能により現在地を表示
- 災害種別毎に避難所、方向を表示



○従来の取組

(1) 市管理河川の河道掘削及び伐木等の実施

- ・準用河川、普通河川及び集水路等排水機場関連施設について適時実施

※事例1：準用河川屯田川河道掘削(R2年度：屯田川ほか5箇所実施)

事例1：準用河川屯田川河道掘削



(2) 宅地造成等に伴う流出抑制施設設置

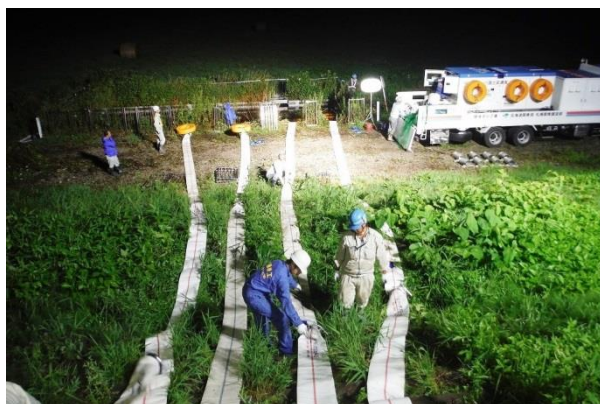
- ・調整池、地下貯留施設、貯留管等

(3) 内水排除に伴う仮設施設の設置

- ・厚別第2号樋門付近排水ポンプ車用釜場の活用 ※事例2
- ・中島地区の内水対応 ※事例3

事例2: 西角山地区釜場仮設状況

a. 札幌開発建設部排水ポンプ車



b. 江別市排水ポンプ車・排水ポンプ配置



事例3: 中島排水機場仮設状況



○今後の取組み

(1) 市管理河川の河道掘削及び伐木の実施

- ・国土強靱化推進による今年度新規起債メニューの緊急浚渫推進事業(R6迄)
の積極的な活用により市内土砂堆積河川において継続して実施予定

(2) 宅地造成等に伴う流出抑制施設設置の継続指導

(3) 内水排除に伴う仮設施設設置(事例2、3)の継続

○流域治水(制度)への期待や意見

▼西角山地区の内水対応について

- ・事例2の西角山地区の内水対応について発議提案

<議案>

○江別市西角山地区の内水対応について

- ・洪水時における江別市西角山地区の内水対応について、より円滑に効果的、効率的に排水されるよう、流域関係者により検討いただきたい。(参考資料:次頁図1)

<地区概要>

- 当該地区(薄赤着色部分)は札幌市に隣接し、国が管理する豊平川、厚別川と北海道が管理する旧豊平川に囲まれ、中央に国道275号が横断する、江別市域においても低地に数えられる地域です。
- 洪水時における内水増水時においては、豊平川側の内水が国道を横断し、旧豊平川へ注がれ、厚別排水機場(河川)及び第一厚別排水機場(農業)で内水排除を行う計画となっております。
- 経年による排水施設及び農地耕作面の沈下などにより、旧豊平川へ円滑に導水されておらず、近年は平成28年7月及び平成30年8月の洪水時において、農地の一部冠水がおきております。
- また、これらの対応として札幌開発建設部札幌河川事務所により、平成20年度に厚別排水機場の能力を16t/sから22t/sに増強したことや、排水ポンプ車などによる内水排除を目的とした即効性のある施設として、平成23年3月に厚別第2号樋門近くに釜場が設置され、排水ポンプ車や汎用水中ポンプの設置により対応しているところです。
- 江別市といたしましては、2つの排水機場の本来能力が発揮できるよう希望するところですが、排水機場においては国の河川部局と農業部局、旧豊平川は北海道管理、旧豊平川へ注ぐ農業用排水路は江別市管理であり、また、札幌市域を跨ぐことなど、これまでも個別に協議を進めておりましたが、権利関係者が輻輳しているなど江別市による調整は非常に困難な事案であると考えております。

図1



千歳市の流域治水の取組み

◎流出を抑制する「雨水調整池」の整備と「浸透ます」等の設置

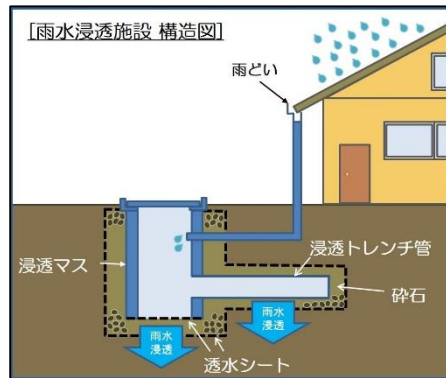


【「雨水調整池」整備状況】

- ・大規模な宅地開発等を行う際に設置

【浸透ます設置 構造図】

- ・住宅建築や駐車場の整備等の際に設置



◎農業地域の内水氾濫を抑制する農業用施設



【農業用排水路】

- ・農業用排水路の整備、河道掘削や草刈りを実施

【排水機場】

- ・排水機場の整備、定期点な維持補修の実施



◎雨水管の機能を増強する下水道工事



【下水道管敷設状況】

- ・合流管の分流工事の実施
- ・雨水管の増強工事の実施

◎普通河川の整備及び維持管理状況



【普通河川 オルイカ川】

- ・普通河川の整備を実施

【普通河川 幌加川】

- ・河道掘削や草刈りを実施



●「千歳川流域治水対策整備計画」に基づいた取組みを実施

①「宅地等開発行為に関する指導要綱」

降雨確率規模を引き上げ、調整池容量を確保するなど流出抑制対策を行う

②「雨水流出抑制に関する指導要綱」

市街地の小規模な宅地開発において、用途地域別流出係数を上回る流量を浸透枿や浸透トレンチ、プラスチック型貯留槽などの雨水流出抑制施設の設置して処理するよう指導

（平成26年度から令和元年度 実績：72件）

③内水対策として排水機場調整池の床ざらい等を実施



写真：西4線排水機場 導水路床ざらい状況 (H28)

●水田貯留機能向上活動（田んぼダム）

多面的機能支払交付金事業（農林水産省）にて、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため地域の共同活動の支援を実施、農村環境保全活動の「水田の貯留機能向上活動」として、市内4つの環境保全会が田んぼダム活動を実施。市内に4環境保全会（東恵庭、松鶴、島松、北栄）があり、構成員は農業者及び団体（町内会・補修組合・排水組合・農協・土地改良区など）で、活動区域は『漁川』の右岸2地区（東恵庭、松鶴）と左岸2地区（島松、北栄）。

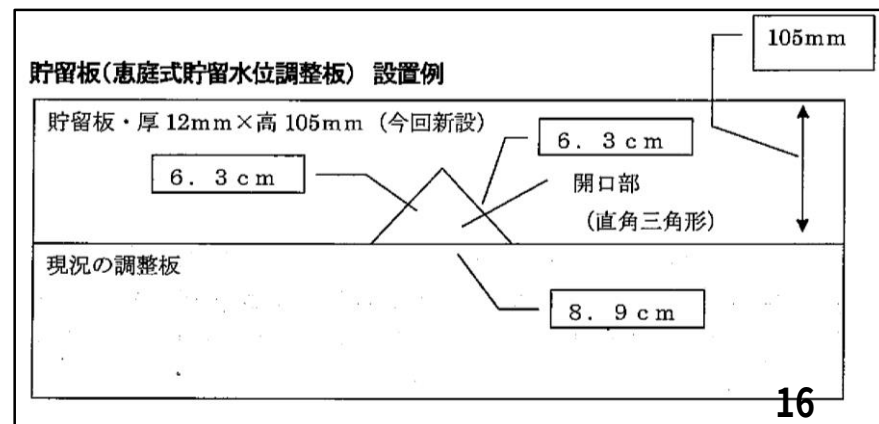
【田んぼダム】

農地・水・環境保全向上対策事業の一環として、平成20年度より活動開始。

水田の持つ貯留機能を利用し、降雨を一時貯留し、河川・排水路への排出を遅らせることにより洪水調節し、雨水の急激な流出を防ぐ。

水田の排水マスに高さ10cmの「水位調整板」を6月中旬～8月中旬にかけてはめ込む。

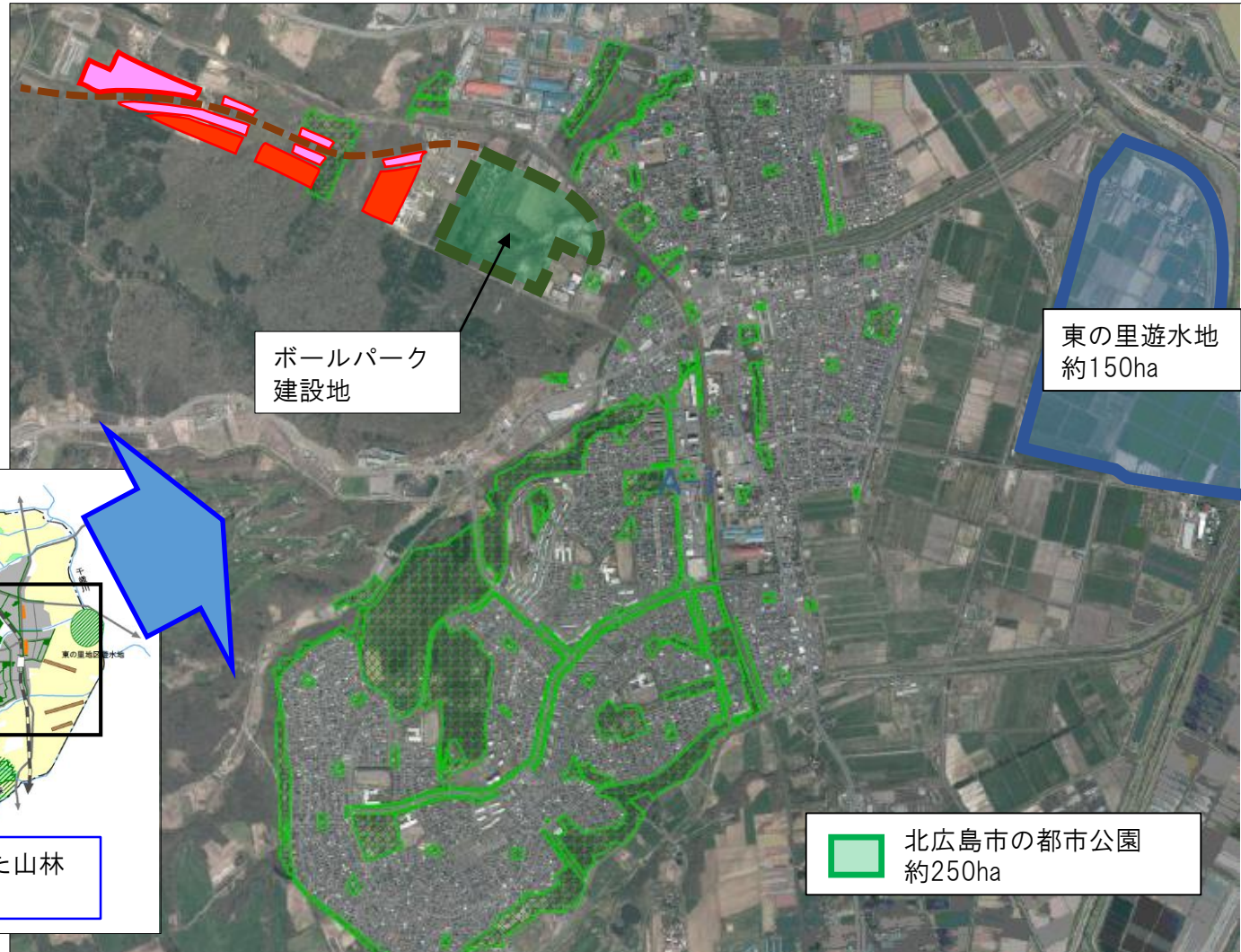
調整板には三角の小さな排水穴があり、通常は適度な水位を保ち、大雨時には貯留機能が働き、調整板により10cm水位が上がって排水され、河川への急激な雨水流出を防ぐ。



樹林地等の緑地の公有化

 樹林地等の緑地の
公有化
約30ha

 天然記念物に指定
されたの樹林地の
公有化
約20ha



公有化した山林
約700ha

1. 従来の取組み

- ◆千歳川流域治水対策整備計画のうち流出抑制対策として、住宅団地・工業団地の造成の際に調整池を整備している。
- ◆町内に配置されている5箇所の排水機場は、点検整備などを通じて、機能確保に努めている。
- ◆町内の基幹排水路の河道掘削・樹木伐採を通じて流下能力確保に努めている。

2. 今後の取組予定

- ◆今後も基幹排水路の河道掘削・樹木伐採を実施する予定。

3. 取組み状況

- ◆令和2年度 幌向運河河道掘削工事(緊急自然災害防止対策事業)



○内水対策

- ・ 南 6 号川流域の浸水課題
- ・ 南 9 号川流域の浸水課題
- ・ 馬追運河流域の浸水課題

○流水抑制対策

- ・ 開発区域からの出水の抑制

○農業分野の取組

- ・ 多面的機能支払交付金事業

○防災計画の強化

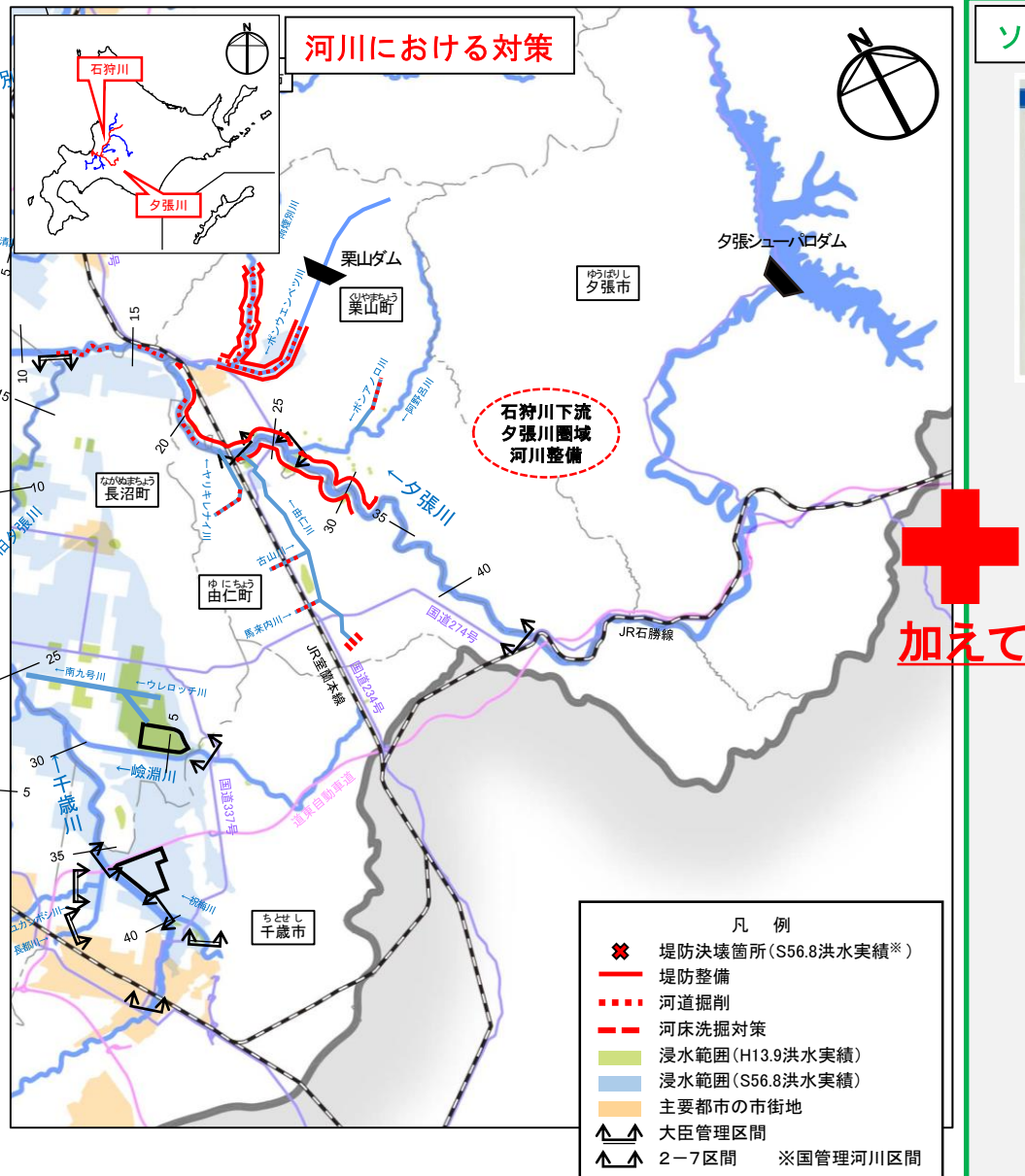
- ・ 防災ガイドの配布
- ・ 自主防災組織の育成
- ・ 防災行政無線の整備



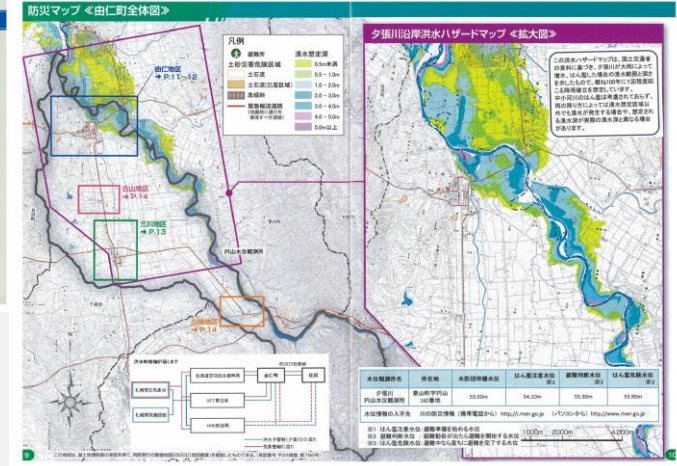
馬追運河



調整池



ソフト対策 (由仁町)



想定最大規模の洪水浸水想定区域図に基づいて
見直した防災ハザードマップを作成中



防災教育を実施



庁舎や指定避難所に非常用発電設備を設置
(庁舎：138kVA、指定避難所：50～175kVA)



保存版 栗山町
防災ガイドブック
お話を聞いて、自然災害から生き残りましょう！

平成 30 年 10 月
発行所 栗山町 企画・編集・発行

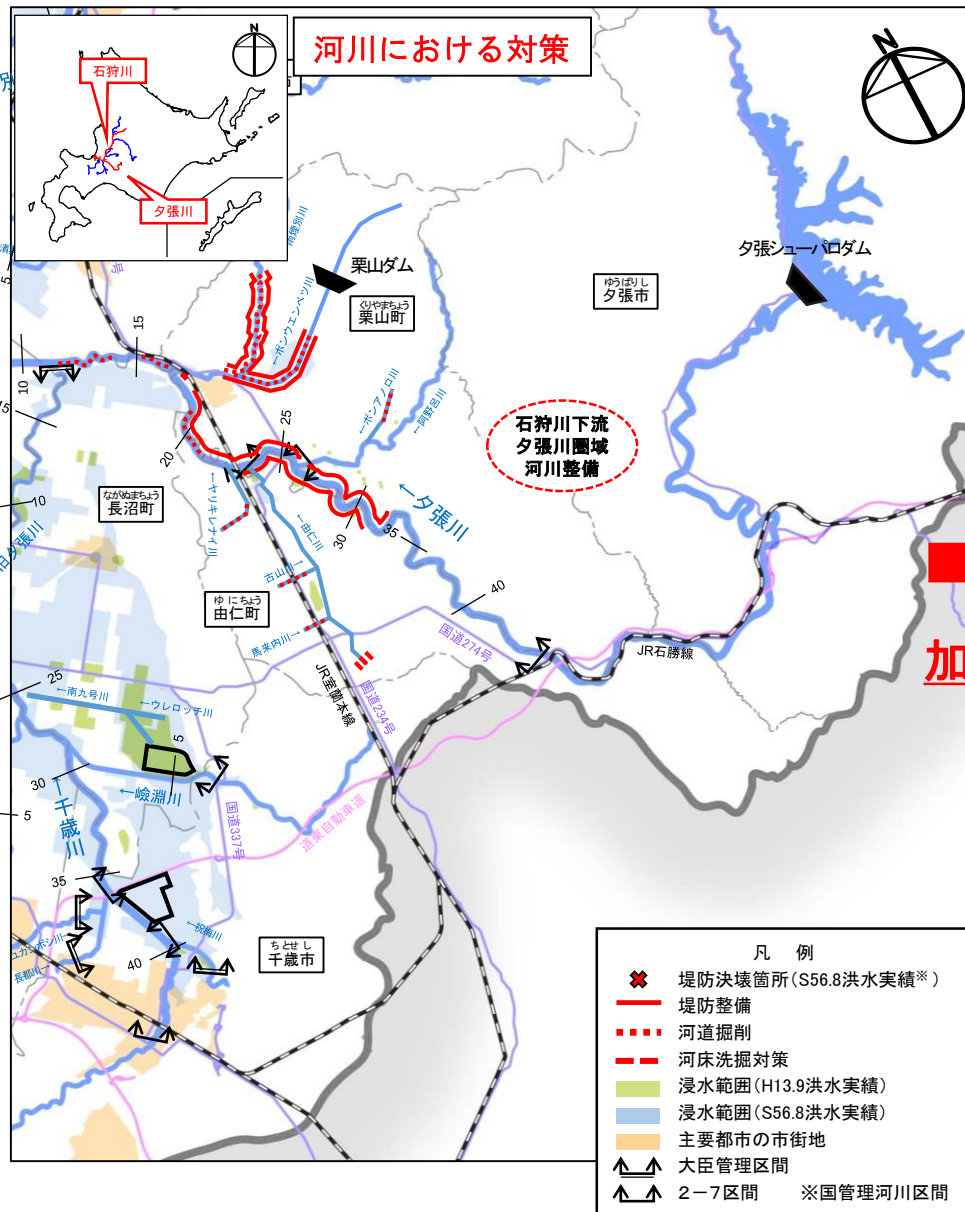
栗山町



防災ガイドブック（洪水ハザードマップ）の公表
タイムラインの作成
洪水ハザードマップに基づく防災訓練等の実施



防災教育（1日防災学校）を実施
札幌開発建設部職員が水防災について講演



ソフト対策（夕張市）



水防訓練及び住民避難訓練の実施



市内8箇所（各消防分団詰所）に、土のう用砂（4m³）を水防資機材として配置

加えて



実践に即した形で住民避難訓練を実施

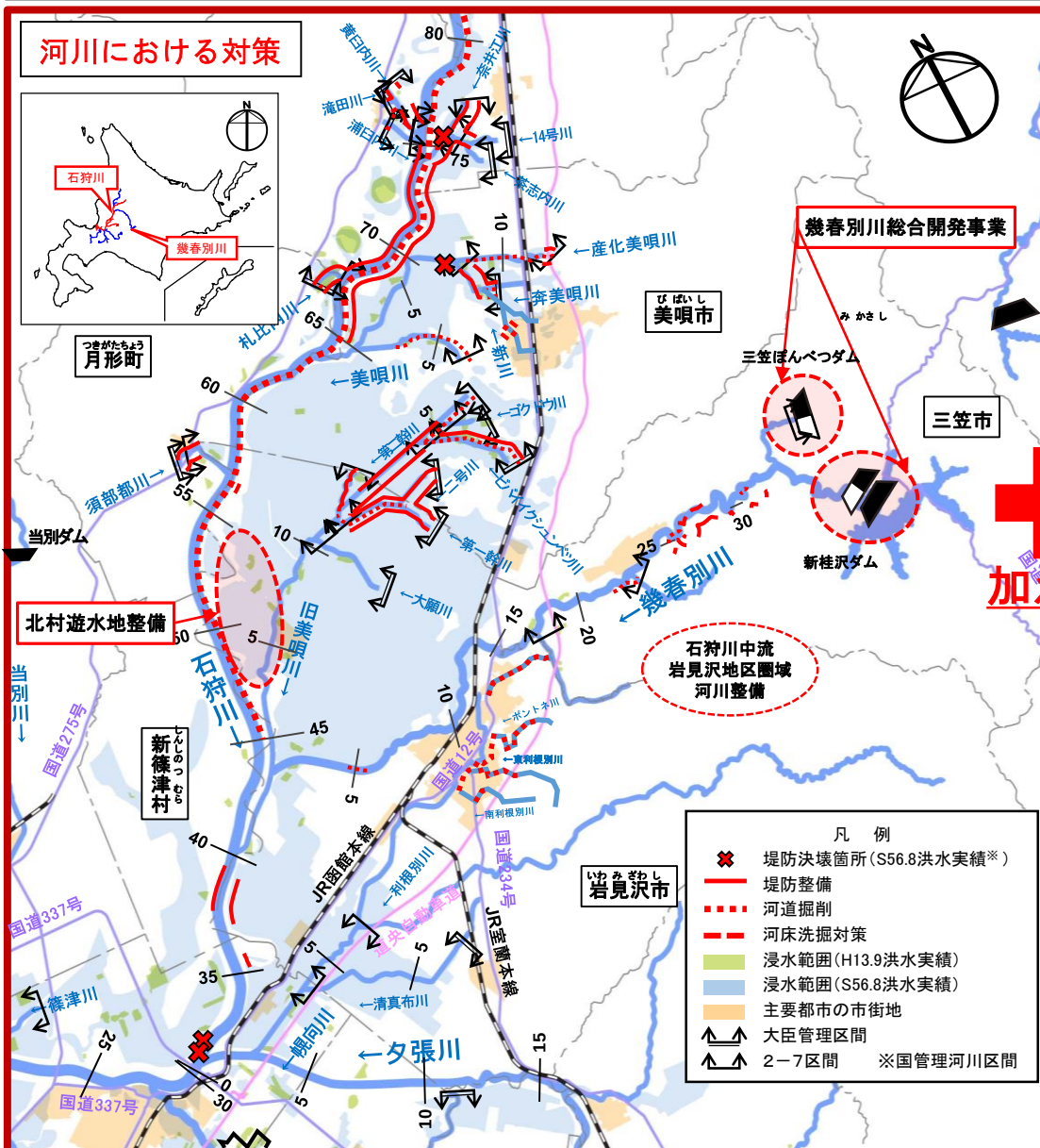


流域における対策の推進について

【幾春別川流域】

流域における対策については、河川敷における採草や公園の整備・維持管理、旧川における公園の整備・維持管理、農村部における取組促進、事前放流等の実施などを、引き続き推進する。

河川における対策



流域における対策

河川敷における採草、公園の整備・維持管理



河川敷における採草や公園の整備・維持管理により、再樹林化抑制を図ることで、河川の流下能力を維持する。
【新篠津村、岩見沢市、三笠市、月形町】

旧川における公園の整備・維持管理



旧川における公園の整備・維持管理により、旧川の有する貯水機能の保全を図る。
【新篠津村、月形町】

農村部における取組促進



農業用排水施設や田んぼダムの促進等により、河川へ流出する雨水量の低減に貢献。
【岩見沢市、美幌市】

事前放流等の実施



利水ダム等における事前放流等の実施、体制を構築する。
【桂沢ダム等】

ソフト対策

水害リスクが高い区間の監視体制整備、情報発信の強化、防災教育等

滝川市の流域治水の取組み



滝川市

◎支流の流出抑制、支川氾濫抑制、 内水被害を軽減する取組



- ・河道掘削、樹木伐採による
流下断面の拡大



- ・支流流域の森林整備(植樹)
による流出抑制



◎大規模災害時における迅速な 復旧支援の取組



- ・災害時対応復旧資機材の
整備（マンホールトイレ
発電機等）



【その他】・防災拠点としての道の駅の整備(予定)

◎防災教育や計画策定及び情報発信の取組



- ・ハザードマップの策定
及び住民への周知



- ・出前講座による
防災教育の実施

【その他】

- ・不動産関係者への水害リスク情報の提供
- ・「マイタイムライン」の作成及び更新
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成と訓練実施等
- ・自主防災組織の活性化支援
- ・下水道BCP（業務継続計画）の策定
- ・災害情報の発信、公共交通網、企業危険物管理施設、
大規模工場等への浸水リスク情報周知
- ・都市計画マスタープランや立地適正化計画による
水害に強い地域への誘導(予定)
- ・SNSを活用した発信、災害伝承のための記録提供(予定)

◎その他の取組全般

- ・防災専用パトロールカーの配備
- ・外部人材（地域おこし協力隊、
集落支援員）等の活用(予定)



●防災フォーラム「昭和56年水害の経験と知恵の伝承」

昭和56年に発生した水害から得られた教訓・記録を次の世代に伝承し、あらためて地域の特性や防災対策の必要性を認識し、地域の防災力を高めるために開催。

参 加 市民、関係者 70名

協力機関 自主防災組織・砂川市防火防災協力会・
砂川広域消防組合・札幌開発建設部・
札幌建設管理部

内 容 ・昭和56年当時の水害の写真の展示
・昭和37年、50年水害動画の上映
・昭和56年水害の説明
・昭和56年以降の治水事業の変遷についての説明
・有識者によるパネルディスカッション



●地域住民や小中学生等を対象にした防災教育の推進

砂川小学校1日防災学校

内容:講話、新聞紙の皿づくり等



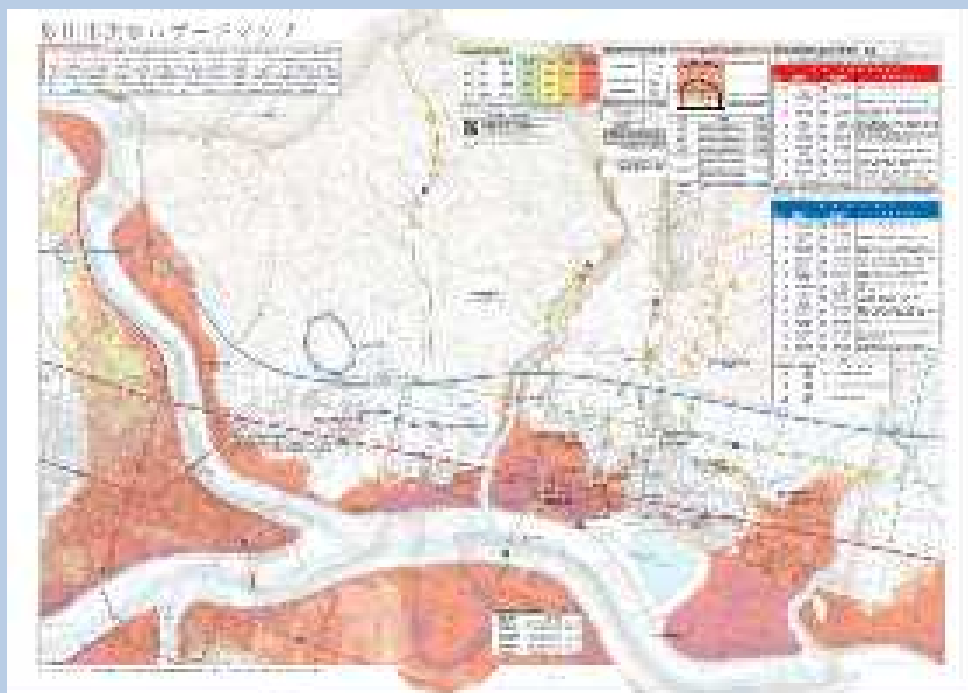
防災に関する出前講座等の実施(適時)
希望団体に対する出前講座を実施。



砂川市の流域治水の取組み

●ハザードマップの作製及び住民への周知

- ・転入者へのハザードマップの配布
- ・ホームページやSNSを活用したハザードマップの周知
- ・出前講座や防災訓練などハザードマップの活用方法の周知



●まるごとまちごとハザードマップの推進

避難所等の認知度の向上を目的に市内28箇所、36枚の看板を設置



砂川市の流域治水の取組み

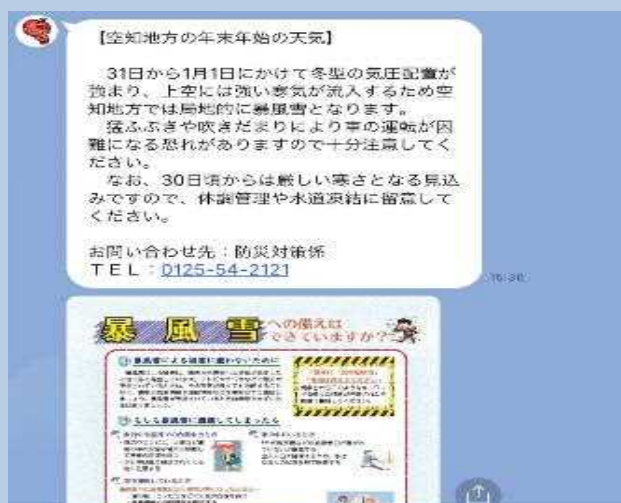
●自主防災組織の活性化支援

- ・自主防災組織を設立する町内会に対し
上限2万円の補助金を支給
- ・自主防災組織の活動旗の作成
- ・防災訓練の補助や物品の貸し出し



●テレビ・ケーブルテレビ・ラジオ・SNS等を活用した災害情報等の発信の強化

【LINE 公式アカウント】



【UHB 地デジ広報】



砂川市の流域治水の取組み

●公共下水道(雨水)の整備



●内水排除用ポンプ・発電機の購入





深川市における流域治水の取り組み

深川市

【深川市緊急浚渫推進事業】

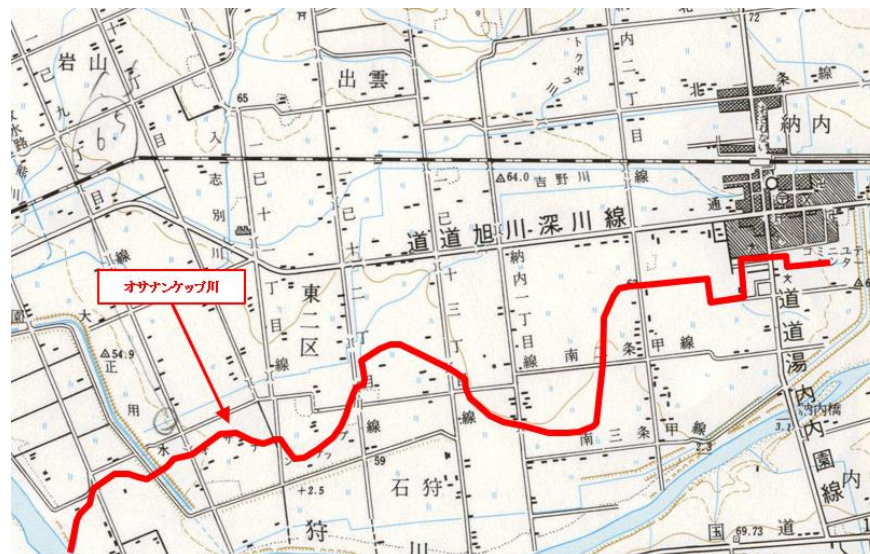
<状況>

これまでの出水等による土砂堆積により流下能力が低下（流下断面が阻害）されており、現状でもその安全度は十分とは言えない状況にある。

<令和2・3年度予定>

石狩川水系オサナンケツ川河道掘削を実施

- 事業延長 340 m³
- 事業費（起債） 5,000千円



着工前



土砂掘削状況



完成





深川市における流域治水の取り組み

深川市

【防災拠点整備】

- 防災拠点施設の整備として耐震化や浸水深を想定しつつ、現在の深川市役所敷地内に新庁舎の建設に向け取り組んでいる。
- 深川市地域防災計画の実効性を高めるため、応急対策及び通常業務の実施体制等について、公共下水道事業も含め「業務継続計画」を策定しており、今後見直しを予定しています。

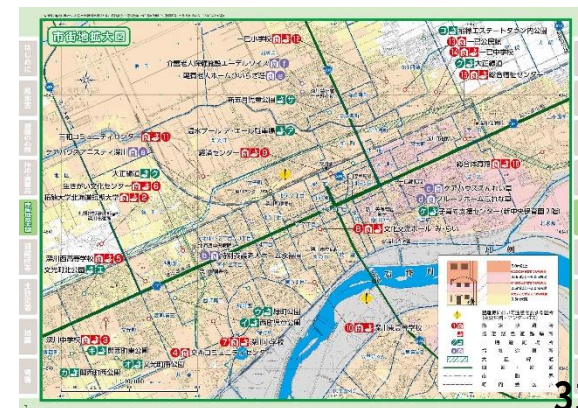
新庁舎イメージ図



【防災情報の周知や提供等】

- 令和元年にハザードマップを改定し、令和2年春に「深川市防災ガイドブック」として、関係者及び市内各世帯に配布しています。
- 水害リスク情報の提供として、不動産関係者に配慮し、ホームページにて公開しています。
- 防災教育として、出前講座による防災教室等を例年実施しています。
令和元年度：防災教室 11回 263人
防災訓練 4団体 318人
- 減災への対応として、田んぼダムの取り組みについて関係機関との連絡体制の構築を検討しています。
- 避難所における活動のため、地域自主防災組織の組織化を進めていく必要があります。

深川市防災ガイドブックによるハザードマップ市街地拡大図



1. 小学生を対象とした防災教育の推進

教育委員会、子ども会育成連絡協議会主催のチャレンジクラブ(小学生対象)により防災クロスロード・避難所設営体験を実施。



2. 地域住民を対象とした防災教育の推進

防災訓練や出前講座等においてハザードマップを使用した防災講和を実施。



3. 災害復旧などを迅速に行う防災拠点

道の駅「ハウスヤルビ奈井江」において、道路管理者である札幌開発建設部と奈井江町が連携し、それぞれが災害時の対応（防災機能）を高めることを目的として、防災拠点化に関する協定を締結。

防災拠点化に関する相互協力として

- (1) 災害情報の収集提供
- (2) 被災者や道路利用者等の避難誘導等の支援
- (3) 防災拠点として必要な資機材の整備
- (4) 防災拠点として必要な維持・管理
- (5) その他防災拠点の機能として必要な事項



今後の取組予定として

防災資機材倉庫の整備及び資機材の納入、防災訓練の実施を予定。



4. 支流の氾濫や内水被害を防止する取組

(1) 排水機場の整備

自然災害による内水被害に備えるため、町内に2地区ある排水機場の計画的な整備を行うとともに、施設の機能が十分に発揮されるよう適正な維持管理を実施。

- ・奈井江瑞穂地区
奈井江排水機場及び
新奈井江排水機場
(H24年～H30年大規模改修)
- ・奈井江高島地区
高島排水機場
(R2年機能診断)



(2) 田んぼダムへの取組(多面的機能支払交付金事業)

水田の貯留機能向上への取組として、大雨時における田んぼダムの実践と普及啓発の実施。

- ・地域での畦畔かさ上げ
- ・大雨時、農家ファックスを活用した
田んぼダム協力依頼
- ・田んぼダムへの理解を深めるため
地域の農業者へのチラシ配布





【流域における対策】

- 河道掘削による流下能力の確保
- 防災拠点（新庁舎）の整備



河道掘削

【まちづくり・ソフト施策】

- 出前講座によるハザードマップの説明
- 自主防災組織で行う研修会の支援
- 老朽化した防災行政無線を更新し、受信機を全戸に配布



出前講座



自主防災会研修会



戸別受信機

妹背牛町の流域治水の取組み

◎従来の取組み

- ・普通河川の河道掘削による流下能力の維持



【施工前状況】



【施工中状況】



【施工完了】

- ・町で管理している排水機場の計画的な整備



【整備点検前】



【整備状況】

- ・田んぼダムを活用した雨水調節機能の確保

◎今後の取組み

- ・普通河川の河道掘削の継続 河道掘削及び樹木伐採を行い流下能力確保に努める。
- ・可搬式非常用発電設備の整備 停電や内水排除時の電源として非常用発電施設を整備する。

◎取組み状況

- ・令和2年度 芽生川幹線排水路浚渫工事
- ・令和2年度 新千代排水機場機能増強工事

秩父別町の流域治水の取組み

◎流域における対策

- 支流の流出抑制の取組
- 支川氾濫抑制、内水被害を軽減する取組



【支川の氾濫抑制対策】
緊急浚渫推進事業

- ・田んぼダムを活用した雨水調節機能の確保(多面的機能支払交付金事業)
- ・支川、水路における氾濫抑制対策(緊急浚渫推進事業)
- ・排水機場の整備(2条排水機場)



【排水機場の整備】
2条排水機場

◎まちづくり・ソフト施策

- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
- 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組

- ・地域住民や小中学生等を対象にした防災教育の推進
- ・自主防災組織の活性化支援
- ・ハザードマップの策定及び住民への周知
- ・災害情報等の発信等



【一日防災学校(小学校)】
段ボールベッドとワンタッチテント設置



【防災訓練(自主防災組織の活性化支援)】
避難場所の間仕切り、テントの設置



【災害情報等の発信】
戸別受信機の全戸配付

雨 竜 町 の 流 域 治 水 の 取 組 み

◎農業分野の取組み

- ・田んぼダムを活用した雨水調節機能の確保(多面的機能支払交付金事業)

◎流域における対策

- ・町管理河川・幹線排水路の浚渫、伐木、法面補修
- ・排水機場の計画的な整備(渭の津・面白内)
- ・町有林の計画的な保育間伐

◎地域防災の取組み

- ・ハザードマップの作成及び住民への周知
- ・防災訓練の実施
- ・防災無線による災害情報の発信



北竜町の流域治水の取組み

1) 流域対策

- ・普通河川の河道掘削及び伐木事業(R2年度～R7年度 8河川予定)

R2年度 幌美里川河道掘削工事



着工前



施工状況



完 成

- ・普通河川の護岸整備事業(R2年度～R7年度 7河川予定)

R2年度 上田川護岸整備工事



R2年度 更新川護岸整備工事



R2年度 尻無川護岸整備工事



北竜町の流域治水の取組み

1) 流域対策

- ・排水機場機能回復事業(R5年度～R9年度 碧水排水機場予定)



2) 防災対策

- ・防災無線の更新備事業(R元年度、R2年度 実施済)
- ・ハザードマップの作成及び住民周知済

1. これまでの取組み

○町管理河川の取組み

浚渫及び法面補修

河道掘削及び伐木 など

○低地帯浸水危険区域の取組み

道営湛水防除事業(沼田排水機場)

○農業分野の取組み

多面的機能支払交付金事業(水田の貯留機能の向上)、農業用水路等長寿命化、防災減災事業(ハザードマップ作成)、基幹水利施設管理事業、水利施設管理事業 など

○地域防災の取組み

トイレトレーラーの配備、防災のしおりの作成・配布、洪水ハザードマップの作成・配布、高齢者等見守りサポート事業「はあとふる沼田」と連携した自主防災組織の育成 など



【浚渫 施工前】



【浚渫 施工後】



【トイレトレーラー】

2. 今後の取組予定

今後も状況に応じた流域治水事業に取り組む。

流域・ソフト対策に関する取組状況

道の駅「森と湖の里ほろかない」において、道路管理者である札幌開発建設部と幌加内町が連携し、それぞれが災害時の対応（防災機能）を高めることを目的として、防災拠点化に関する協定を締結。

防災拠点化に関する相互協力として

- （１） 災害情報の収集提供
- （２） 被災者や道路利用者等の避難誘導等の支援
- （３） 防災拠点として必要な資機材の整備
- （４） 防災拠点として必要な維持・管理
- （５） その他防災拠点の機能として必要な事項

今後の取組予定として

防災資機材倉庫の整備及び資機材の納入、防災訓練の実施を予定。



富良野市 新庁舎建設位置



北側外観イメージ

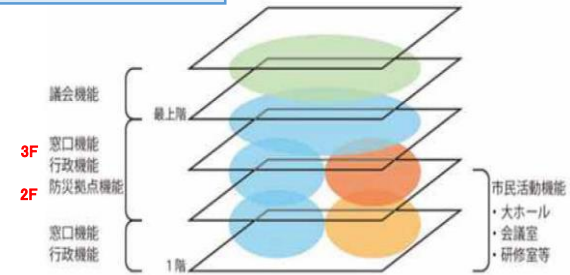


南側外観イメージ

令和4年度完成予定



断面計画(階構成、浸水リスク対策)



各階構成概念図

防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎の実現に向けて

災害時の設備機能の確保

① 重要諸室や主要機械室の確保

- 計画地は浸水想定地域(水深0.5m)であるため、**庁舎の床を0.5m程度嵩上げ**することにより被害の軽減を図ります。
- 備蓄資機材の確保のため**2階以上に倉庫を設置**します。
- 1階と2階以上で設備系統を分け建物安全性と業務継続性を確保します。
- 災害対策活動を進めるための**重要諸室(必要部署の執務室や会議室等)主要機械室(電気室や機械室、サーバー室等)は、浸水対策のため、2階以上の上層階へ設置**します。
- 地震災害対策として、サーバー室床又はサーバーラックの免振化を行います。

② 電気・水道・通信等の継続利用

- 非常時に確保できるエネルギーや水の量が限られる状況に置かれても、少ない使用量で機能が継続できるよう、エネルギーや水の消費量を抑えた設備計画とします。

③ 電源の二重化及び浸水影響範囲の低減

- 電力会社電源の他に、非常用発電機を設置し電源を多重化することにより、電力利用の信頼性を向上させます。
- 電源系統は、浸水想定フロアとその他フロアを分けることで浸水による影響範囲の低減を図ります。

新庁舎建設の基本方針

防災・災害対応の拠点として、耐震性能を確保した安心安全な災害に強い庁舎とします。

防災拠点機能

- 防災拠点機能としての機能が、十分発揮できる耐震性能の確保を行います。
- 床の嵩上げ、防潮板等の設置による浸水対策を行います。
- 72時間稼働できる非常時の各設備のバックアップの整備を行います。
- 災害時のライフラインの確保を行います。(電力・上下水道・通信)
- 災害対策本部の整備を行います。
- 備蓄資機材等の確保を検討します。
- 指定緊急避難所(一時避難所)

新庁舎建設位置

- 浸水対策として、1階床レベル及び敷地全体を嵩上げするなど建物の安全性の確保を図ります。

国、北海道等における取り組み資料

■ 水源林造成事業による森林の整備・保全

- ・ 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・ 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。

水源林の整備



針交混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



間伐実施後

■農業農村整備事業による農業水利施設の整備・水田の貯留機能向上

- ・ 農業農村整備事業により農業用ため池や排水施設等の農業用水利施設の整備や区画整理を行うことで、雨水の貯留や速やかな排水等の農業の有する多面的機能を効果的、効率的に発揮することができる。



農業用排水路の整備



農業用ため池の整備



区画整理

農地の集積・大区画化 ※田んぼダムの基盤

